

小学5年 国語マスター [改訂版]

番号	内容	ページ	解答	日付	点数	合否
1	5年の漢字①	3	83	/	点	
2	春の詩を読もう	4	84	/	点	
3	言葉のきまり	5	85	/	点	
4	5年の漢字②	6	86	/	点	
5	音読しよう(1)	7	87	/	点	
6	音読しよう(2)	8	88	/	点	
7	5年の漢字③	9	89	/	点	
8	国語ノートの作り方	10	90	/	点	
9	5年の漢字④	11	91	/	点	
10	図書館へ行こう	12	92	/	点	
11	筆者の考えをまとめよう(1)	13	93	/	点	
12	筆者の考えをまとめよう(2)	14	94	/	点	
13	5年の漢字⑤	15	95	/	点	
14	漢字の由来	16	96	/	点	
15	リーフレット	17	97	/	点	
16	5年の漢字⑥	18	98	/	点	
17	資料の活用(1)	19	99	/	点	
18	資料の活用(2)	20	100	/	点	
19	5年の漢字⑦	21	101	/	点	
20	一つの言葉から	22	102	/	点	
21	物語の山場をとらえよう(1)	23	103	/	点	
22	物語の山場をとらえよう(2)	24	104	/	点	
23	物語の山場をとらえよう(3)	25	105	/	点	
24	物語の山場をとらえよう(4)	26	106	/	点	
25	5年の漢字⑧	27	107	/	点	
26	文の組み立て	28	108	/	点	
27	5年の漢字⑨	29	109	/	点	
28	夏の詩を読もう	30	110	/	点	
29	新聞記事(1)	31	111	/	点	
30	新聞記事(2)	32	112	/	点	
31	本は友達	33	113	/	点	
32	5年の漢字⑩	34	114	/	点	
33	敬語	35	115	/	点	
34	5年の漢字⑪	36	116	/	点	
35	注文の多い料理店(1)	37	117	/	点	
36	注文の多い料理店(2)	38	118	/	点	
37	注文の多い料理店(3)	39	119	/	点	
38	注文の多い料理店(4)	40	120	/	点	
39	5年の漢字⑫	41	121	/	点	
40	不思議な世界	42	122	/	点	

小学5年 国語マスター [改訂版]

番号	内容	ページ	解答	日付	点数	合否
41	竹取物語	43	123	/	点	
42	5年の漢字⑬	44	124	/	点	
43	平家物語	45	125	/	点	
44	5年の漢字⑭	46	126	/	点	
45	和の文化(1)	47	127	/	点	
46	和の文化(2)	48	128	/	点	
47	5年の漢字⑮	49	129	/	点	
48	メディアとの関わり	50	130	/	点	
49	5年の漢字⑯	51	131	/	点	
50	和語、漢語、外来語	52	132	/	点	
51	秋の詩を読もう	53	133	/	点	
52	5年の漢字⑰	54	134	/	点	
53	朗読しよう(1)	55	135	/	点	
54	朗読しよう(2)	56	136	/	点	
55	朗読しよう(3)	57	137	/	点	
56	朗読しよう(4)	58	138	/	点	
57	5年の漢字⑱	59	139	/	点	
58	すいせん文	60	140	/	点	
59	立場を決めて討論しよう(1)	61	141	/	点	
60	立場を決めて討論しよう(2)	62	142	/	点	
61	意見と理由	63	143	/	点	
62	5年の漢字⑲	64	144	/	点	
63	冬の詩を読もう	65	145	/	点	
64	枕草子	66	146	/	点	
65	5年の漢字⑳	67	147	/	点	
66	俳句や短歌で表そう	68	148	/	点	
67	5年の漢字㉑	69	149	/	点	
68	熟語の構成	70	150	/	点	
69	5年の漢字㉒	71	151	/	点	
70	テクノロジーの進歩	72	152	/	点	
71	5年の漢字㉓	73	153	/	点	
72	伝記を読もう(1)	74	154	/	点	
73	伝記を読もう(2)	75	155	/	点	
74	伝記を読もう(3)	76	156	/	点	
75	5年の漢字㉔	77	157	/	点	
76	慣用句	78	158	/	点	
77	宮沢賢治(1)	79	159	/	点	
78	宮沢賢治(2)	80	160	/	点	
79	五年の漢字テスト(1)	81	161	/	点	
80	五年の漢字テスト(2)	82	162	/	点	

1	5年の漢字①	制限時間 20分	合格点 80点	点
---	--------	-------------	------------	---

漢字に共通している部分を、部首といいます。れい)紙、線、絵、細、組

漢字をていねいになぞりましょう。(2点×8問=16点)

	手術 しゆじゆつ	美術 いじゆつ		過ごす す	過去 かこ
	芸術 げいじゆつ	美術館 びじゆつかん		通過 つうか	過労 かろう
	述べる の	記述 きじゆつ		現れる あらわ	現代 げんだい
	述語 じゆつご	口述 こうじゆつ		表現 ひょうげん	現像 げんぞう
	増える ふ	増加 ぞうか		在る あ	現在 げんざい
	増す ます	増員 ぞういん		在りか あ	在校生 ざいこうせい
	画像 がざう	実像 じつざう		象 ぞう	印象 いんしやう
	想像 そうざう	立像 りつざう		子象 こざう	対象 たいしやう

漢字で書きましょう。(5点×15問=75点)

①	げいじゆつ にふれる	②	の きもちを べる	③	じゆつご しゆご 主語と
④	ふ さんかしゃ 参加者が える	⑤	ま あめいきお 雨の勢いが す	⑥	ぞうか じんこう 人口が する
⑦	ぞう きもちを する	⑧	す のんびりと ござす	⑨	つうか トンネルを する
⑩	あらわ めまえ 目の前に れる	⑪	げんぞう しゃしん 写真を する	⑫	げんざい の天気
⑬	ざいこうせい のあいさつ	⑭	ぞう の背中に 乗る	⑮	いんしやう よい を与える

読み方を書きましょう。(3点×3問=9点)

①	過去 の出来事	②	財宝の 在りか	③	正直 に話す
---	---------	---	---------	---	--------

4	5年の漢字②	制限時間 20分	合格点 80点	点
---	--------	-------------	------------	---

左につく部首を「へん」といいます。れい)紙、線、絵 → 「いとへん」 校、村、林 → 「きへん」

漢字をていねいになぞりましょう。(2点×8問=16点)

	へ 経る しんけい 神経	けいけん 経験 けい か 経過		ようき 容器 ようりょう 容量	ないよう 内容 びよう 美容
	りえき 利益 むえき 無益	ゆうえき 有益 ますだし 益田市		しりょう 資料 しきん 資金	しさん 資産 ぶつし 物資
	さかい 境 けんざかい 県境	きょうかい 境界 こっきょう 国境		こた 応える おう 応じる	おうせん 応戦 はんのう 反応
	め 眼 きんがん 近眼	がんか 眼科 ろうがんきょう 老眼鏡		たし 確か せいかく 正確	かくしん 確信 かくじつ 確実

漢字で書きましょう。(5点×15問=75点)

①	けいか さんじかん 三時間 <input type="text"/> する	②	しんけい <input type="text"/> とす を研ぎ澄ます	③	むえき <input type="text"/> たたか な戦い
④	さかいめ てんきの 天気 <input type="text"/>	⑤	こっきょう <input type="text"/> こ を越える	⑥	がんか <input type="text"/> せんせい の先生
⑦	ようき プラスチック <input type="text"/>	⑧	ないよう <input type="text"/> つた を伝える	⑨	しりょう <input type="text"/> よ を読む
⑩	ぶっし <input type="text"/> ふそく が不足する	⑪	おう とりひき 取引 <input type="text"/> じる	⑫	こた ようぼう 要望 <input type="text"/> える
⑬	おうせん てき 敵 <input type="text"/> する	⑭	たし じじつ 事実 <input type="text"/> かめる	⑮	せいかく <input type="text"/> じょうほう な情報

読み方を書きましょう。(3点×3問=9点)

①	ながとき 長い時を <input type="text"/>	②	眼 <input type="text"/> けんさ の検査をする	③	せけん 世間の <input type="text"/>
---	-----------------------------------	---	--------------------------------------	---	---------------------------------

国語のノートには、学習で分かったことだけでなく、自分の考えや参考になる友達の良い考えも書きましょう。

声に出して読みましょう。(30点×1問=30点)

四月十五日 だいじょうぶ だいじょうぶ

**今日のめあて**

「だいじょうぶ、だいじょうぶ。」の音読のしかたを話し合う

◎ 音読するときの注意

- ・ 声の大きさ ・ 声の高さ ・ 読む速さ
- ・ 間の取り方 ・ 声の調子

○ 十六ページの「だいじょうぶ、だいじょうぶ。」

ぼくの手をにぎり、おまじないのようにつぶやく。

← おじいちゃんが、「ぼく」を安心させようとして言った。

← ゆっくりと、少し小さな声でやさしく読む。

○ 十八ページの「だいじょうぶ、だいじょうぶ。」

今度はぼくの番です。

← 「ぼく」が、おじいちゃんをはげまそうとして言った。

← はげますように、力をこめて読む。

**今日のまとめ**

おじいちゃんから「ぼく」へ、「ぼく」からおじいちゃんへの、それぞれの気持ちが変わるように音読したい。

友達のアドバイスが参考になった。



友 力をこめても、大きな声にならないようにしたほうがよい。

先生が黒板に書いた  
だいじなことを書き写す。

「だいじょうぶ、だいじょうぶ。」にこめられた気持ちを考える。

学習して分かっただいじなことや、次の学習に生かしたいことなどをまとめる。

よほくを取り、友だちの意見などを、書き加えられるようにする。

学習を進めていくうえで大切なことは、線で囲んで目立たせる。

上の文章について、正しいものに○をしましょう。(10点×5問=50点)

①	日付は、どこに書きますか。	右上	左下	右下
②	学習を進めていくうえで大切なことは、どうしますか。	べつのノートに書く。	ほかの文と同じように書く。	線で囲んで目立たせる。
③	よほくを取るのとは、何のためですか。	ノートをきれいに見せるため。	友だちの意見などを書き加えるため。	新しい漢字を練習するため。
④	おじいちゃんから「ぼく」への「だいじょうぶ、だいじょうぶ。」は、どのように音読しますか。	ゆっくりと、少し小さな声でやさしく読む。	はげますように、力をこめて読む。	おこったように、早口で強く読む。
⑤	「ぼく」からおじいちゃんへの「だいじょうぶ、だいじょうぶ。」は、どのように音読しますか。	ゆっくりと、少し小さな声でやさしく読む。	はげますように、力をこめて読む。	おこったように、早口で強く読む。

上の文章について答えましょう。(10点×2問=20点)

①	今日のめあては何ですか。
②	今日のまとめには、何を書きますか。  ( )や、次の学習に生かしたいことなどを書く。

漢字は、三千年以上も前に中国で作られました。その後、日本に伝えられ、日本語の文字としても長い間使われています。

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

象形文字…「日」「目」「鳥」のように、物の形をかたどった文字です。



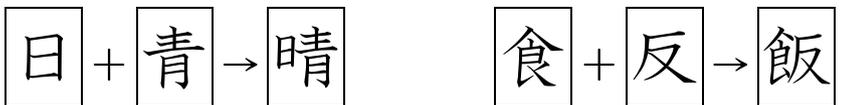
指事文字…「一」「二」「上」「下」のように、形に表しにくいことから、点や線などを使って表した文字です。



会意文字…「山」「石」→「岩」のように、漢字を組み合わせて、新しい意味を表すようにした文字です。



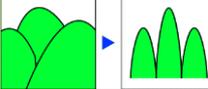
形声文字…「木」「反」→「板」のように、意味を表す漢字と音を表す漢字を組み合わせた文字で、漢字の大半をしめます。



上の文章について答えましょう。(10点×2問=20点)

- 指事文字とは、どんな成り立ちの文字ですか。  
( )に表しにくいことから、( )や( )などを使って表した文字。
- 漢字を成り立ちで4つに分類したとき、もっとも多いのはどの種類の漢字ですか。  
( )文字

どんな漢字ができるか書きましょう。(3点×6問=18点)

① 	② 	③ 口 + 鳥 →
④ 羊 + 大 →	⑤ 金 + 同 →	⑥ 竹 + 官 →

次の形声文字を、意味を表す部分と音を表す部分に分けましょう。(4点×3問=12点)

①	漢字	意味	音	②	漢字	意味	音	③	漢字	意味	音
	校				粉				聞		

漢字を成り立ちで4つに分類したとき、それぞれに合う漢字を5つずつ下から選びましょう。(10点×4問=40点)

① 象形文字	② 指事文字
③ 会意文字	④ 形声文字

森、月、泳、男、明、紙、三、大、火、時、好、七、田、星、本、鳥、固、末、小、信

五・七・五の俳句や、五・七・五・七・七の短歌で、音数が少ないことを「字足らず」、音数が多いことを「字余り」といいます。音数を守ることが原則ですが、「字足らず」や「字余り」であえてリズムをくずして、詩の印象を深めるという手法もあります。また、詩の印象を深めるために、たとえを使ったり、言葉の順序を入れかえたりすることもあります。

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

A	目には青葉 山ほととぎす 初鰹 (目には青葉が映り、山のほととぎすの鳴き声が聞こえ、今年初めて食べるカツオの味が広がる。)	山口 素堂	
B	夏河を 越すうれしきよ 手に草履 (手に草履を持って、はだいで夏の小川を渡るの、うれしいものだ。)	与謝 蕪村	
C	遠雷や はつしてひかる 耳かざり (遠くに雷の音が聞こえて、念のためにはずした耳かざりがキラリと光る。)	木下 夕爾	
D	蟻と蟻 うなづきあひて 何か事 ありげに奔る 西へ東へ (蟻と蟻がすれ違うときに、何か伝える事があるようにうなづき合って、西へ東へと急いでいる。)	橘 曙覧	
E	最上川の 上空にして 残れるは いまだうつくしき 虹の断片 (最上川のはるか上空に、美しい虹の断片がいまだに残っている。)	斎藤 茂吉	
F	てのひらの くぼみにかこぶ 草螢 移さおとして ひかりをこぼす (手のひらのくぼんだ部分に囲んだ螢を、もう片方の手に移そうとしたときに、指のすき間から光がこぼれた。)	高嶋 健一	

上の俳句や短歌について、正しいものに○をしましょう。(10点×5問=50点)

①	Aの俳句では、初夏の季節感が感じられますが、人間の五感のうちどの感覚にうたえかけていますか。	視覚(目)と嗅覚(鼻)と味覚(舌)	触覚(皮ふ)と聴覚(耳)と味覚(舌)	視覚(目)と聴覚(耳)と味覚(舌)
②	Bの俳句では、印象を深めるために、どことなくふうが使われていますか。	たとえを使っている。	言葉の順番を入れかえている。	あえて音数をくずしている。
③	Cの俳句の季語と季節は何ですか。	季語…遠雷 季節…春	季語…遠雷 季節…夏	季語…耳かざり 季節…夏
④	Dの短歌の「うなづきあひて」の部分の説明として、正しいものを選びましょう。	蟻の動作を人の動作にたとえている。	人の動作を蟻の動作にたとえている。	誰の動作か分からないようにしている。
⑤	Eの短歌が、五・七・五・七・七ではなく六・七・五・八・七で字余りになっているのは、なぜですか。	リズムをくずして印象を深めるため。	決まった音数で書ききれなかったため。	短歌ではないため。

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

西瓜の詩 山村 暮鳥	
みんな あつまれ あつまれ	
そしてぐるりと 輪を描け	
いま 真二つになる西瓜だ	

上の詩について、正しいものに○をしましょう。(10点×3問=30点)

①	この詩は、夏を想像させる詩ですが、それは詩の中のどの言葉から分かりますか。	西瓜	みんな	輪を描け
②	「あつまれ」とありますが、どのように「あつまれ」と言っていますか。	一列にあつまる	二列にあつまる	輪になってあつまる
③	詩の中の西瓜は、どのような状態ですか。	丸いままの状態	二つに切った状態	食べやすい大きさに切った状態



「竹取物語」は、今から千年以上も前に書かれた物語で、「かぐやひめ」のお話のもとになっています。

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

古文の発音と現在の発音とのちがい

「み」は「い」と発音。

例) ま<sup>み</sup>ゐる→ま<sup>い</sup>いる、聞き<sup>み</sup>る→聞き<sup>い</sup>る

「づ」は「ず」と発音。

例) み<sup>づ</sup>→み<sup>ず</sup>、よろ<sup>づ</sup>→よろ<sup>ず</sup>

「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」と発音。

例) い<sup>ふ</sup>→い<sup>う</sup>、ま<sup>へ</sup>→ま<sup>え</sup>、あら<sup>は</sup>す→あら<sup>わ</sup>す

「む」は「ん」と発音。

例) お<sup>む</sup>な→お<sup>ん</sup>な、や<sup>む</sup>ごと<sup>な</sup>き→や<sup>ん</sup>ごと<sup>な</sup>き

「しう」は「しゅう」と発音。

例) あ<sup>や</sup>し<sup>う</sup>→あ<sup>や</sup>し<sup>ゅう</sup>、お<sup>と</sup>な<sup>し</sup>う→お<sup>と</sup>な<sup>し</sup>ゅう



古文の言葉を現在の読み方に直しましょう。(3点×12問=36点)

①	みど	②	くれなゐ	③	みづうみ	④	いづれ
⑤	うしなふ	⑥	やはらげ	⑦	思ひ	⑧	食はへて
⑨	取らむ	⑩	散らむ	⑪	うつくしう	⑫	したしう

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

<古文>

今は昔、竹取のおきなといふ者ありけり。

野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。

名をば、さぬきのみやつことなむいひける。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。

あやしがりて、寄りて見るに、つつの中光りたり。

それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてあたり。

<意味>

昔、竹取のおじいさんという人がいた。

野山に分け入って竹を取っては、いろいろなことに使っていた。

名前を、「さぬきのみやつこ」といった。

ある日、その竹の中に、根元の光る竹が一本あった。

ふしぎに思って、近よって見ると、竹の中が光っている。

それを見ると、手のひらほどの人が、とてもかわいい様子で座っている。



上の文章について、正しいものに○をしましょう。(8点×3問=24点)

①	「おきな」とは、どういう意味ですか。		
	大きな	おじいさん	おばあさん
②	「よろづのこと」とは、どういう意味ですか。		
	いろいろなこと	決まったこと	大事なこと
③	「うつくしう」とは、どういう意味ですか。		
	美しい	小さい	かわいい

上の文章について答えましょう。(10点×2問=20点)

①	竹取のおじいさんの名前は何か。
②	「ふしぎに思って」という意味になる古文を、文章中から抜き出しましょう。

「平家物語」は、実際にあった戦いなどの出来事をもとにして、今から八百年ほど前に作られました。

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

<古文>

祇園精舎の かねの聲、  
諸行無常の ひびきあり。  
娑羅双樹の 花の色、  
盛者必衰の ことわりをあらはす。  
おごれる人も 久しからず、  
ただ春の夜の 夢のごとし。  
たけき者も つひにはほろびぬ、  
ひとへに 風の前の ちりに同じ。

<意味>

祇園精舎という寺のかねの音は、  
「全てのものは移り変わっていく」という真理を、ひびきの中にこめている。  
娑羅双樹の花の色は、  
「勢いのある人も必ずおとろえる」という真理を表す。  
思い上がっている人も長くは続かず、  
ちょうど短くはない春の夜の夢のようである。  
勇ましく強い者も、最後にはほろびてしまうもので、  
それは全く、風にふき飛ばされていくちりと同じである。



上の文章について、正しいものに○をしましょう。(10点×4問=40点)

①	「平家物語」は、何をもとにして書かれましたか。		
	実際にあった戦い。	作者の身近な出来事。	昔から伝わる伝説。
②	「諸行無常」とは、どういう意味ですか。		
	勢いのある人も必ずおとろえる。	強い人は永遠に変わらない。	全てのものは移り変わっていく。
③	「盛者必衰」とは、どういう意味ですか。		
	勢いのある人も必ずおとろえる。	強い人は永遠に変わらない。	全てのものは移り変わっていく。
④	「平家物語」のリズムには、どんな特ちょうがありますか。		
	七音・六音を基本としている。	七音・五音を基本としている。	八音・五音を基本としている。

「おくのほそ道」は、今から三百年ほど前に、松尾芭蕉という人が書いた紀行文(旅行での出来事を書いた文章)です。

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

<古文>

月日は百代の過客にして、  
行き交ふ年もまた旅人なり。  
舟の上に生涯を浮かべ、  
馬の口とらへて老いを迎ふる者は、  
日々旅にして、  
旅を栖とす。

<意味>

月日は、永遠の旅人のようで、  
やってきては去っていく年も、また旅人のようである。  
舟の上で一生を過ごす人や、  
馬で人や荷物を運びながら、年をとっていく人は、  
毎日が旅であって、  
旅の中にくらしている。



上の文章について、正しいものに○をしましょう。(10点×4問=40点)

①	「おくのほそ道」は、いつごろ書かれましたか。		
	約三百年前	約八百年前	約千年前
②	紀行文とは、どんな文章ですか。		
	身近な出来事を書いた文章。	旅行での出来事を書いた文章。	昔の出来事を書いた文章。
③	「百代の過客」とは、どういう意味ですか。		
	大事なお客さん	百才を過ぎた老人	永遠の旅人
④	旅の中にくらす人として、書かれていないのは、どんな仕事の人ですか。		
	船頭	武士	馬方

50	和語、漢語、外来語	制限時間 20分	合格点 80点	点
----	-----------	-------------	------------	---

日本語には、もともと日本にあった言葉と、外国から入ってきた言葉があります。

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

和語は、もともと日本にあった言葉で、ひらがなや漢字の訓読みが多いです。例) 泳ぎ、速さ、宿、始める
漢語は、中国から日本に伝わった言葉で、漢字の音読みが多いです。例) 水泳、速度、旅館、開始
外来語は、中国以外の国から入ってきた言葉で、かたかなが多いです。例) スイミング、スピード、ホテル、スタート

およそ500年前から400年前にかけては、ポルトガルやオランダから外来語が伝わりました。  
また150年ほど前からは、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、イタリアなどから外来語が伝わりました。



次の言葉が和語なら和、漢語なら漢、外来語なら外と書きましょう。(2点×20問=40点)

① 家	② ミルク	③ パン	④ 天	⑤ 逆立ち
⑥ ピアノ	⑦ 広場	⑧ 本	⑨ 見学	⑩ ガラス
⑪ 砂糖	⑫ テニス	⑬ 青空	⑭ 音楽	⑮ カード
⑯ 植物	⑰ クレヨン	⑱ 弾く	⑲ 黒い	⑳ ゆっくり

次の漢字の和語としての読み方と漢語としての読み方を書きましょう。(4点×5問=20点)

漢字	和語	漢語		
例 水車	みずぐるま	すいしゃ	①	
② 果物			③	
④ 色紙			⑤	

次の外来語と同じ意味を表す和語と漢語を下から選んで書きましょう。(4点×5問=20点)

外来語	和語	漢語		
例 スピード	速さ	速度	① ランチ	
② ルール			③ ドリンク	
④ マーク			⑤ ライフ	

記号    規則    昼ごはん    飲料    きまり    くらし    生活    しるし    飲み物    昼食

次の和語や漢語を外来語でどのように表すか、□に合わせて書きましょう。(2点×5問=10点)

例 喫茶店					③ 炊事場	キ			ン
① 運動着					④ 写真機				
② 便所					⑤ こよみ	カ		ン	ー

人の意見を正しく理解するためには、その人がそう考える理由にも目を向けることが大切です。

声に出して読みましょう。(20点×1問=20点)

田中さんたちは、ボランティア活動として、お年寄りがくらしせつを訪問することになりました。

お年寄りに喜んでもらうために、何をするか話し合っています。

田中さんは、みんなの意見と理由をメモに書いています。



	<p>みんなで合唱をするのがいいと思います。それは、ぼくたちの合唱を聞いてもらった り、いっしょに歌ったりして、楽しんでもらいたいからです。 楽しい音楽を聞いたり歌ったりすると、気持ちが明るくなりますよね。 ①、合唱がいいと思います。</p>	<p>意見:合唱 理由:楽しんでもらいたい 気持ちが明るくなる</p>
	<p>かるたやすごろくなどでいっしょに遊ぶのはどうですか。 ②、昔、友達と遊んだことを思い出して楽しんでもらえると思うからです。 お正月に家族でかるたをして遊んだら、 祖父母がそう言って、とても楽しんでいました。</p>	<p>意見:かるた、すごろくなど 理由:昔を思い出して楽しめる</p>
	<p>楽しんでもらうために何かをするのもいいけれど、 ぼくは、生活の役に立つことをするのがいいと思います。 ③、しせつのそじを手伝うのがいいと考えました。 住んでいるところがきれいになったら気持ちがいいので、喜んでもらえると思います。</p>	<p>意見:しせつのそじの手伝い 理由:生活の役に立つ きれい、気持ちいい</p>

上の文章について、正しいものに○をしましょう。(10点×3問=30点)

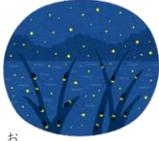
①	①に合う言葉はどれですか。	けれど	なぜなら	だから
②	②に合う言葉はどれですか。	そうすれば	しかし	もし
③	③に合う言葉はどれですか。	また	そのために	このように

上の文章について、( )に合う言葉を書きましょう。(10点×5問=50点)

①	<p>川島さんは、楽しい音楽を聞いたり歌ったりするとどうなると発言していますか。 ( )。</p>
②	<p>体験したことを例に挙げながら発言しているのは、だれですか。 ( )さん。</p>
③	<p>川島さんと石川さんの考えは、どんな点で共通していますか。 ( )という点。</p>
④	<p>竹田さんは、具体的に何をしたいと述べていますか。発言の中から七字でぬき出しましょう。 ( )。</p>
⑤	<p>竹田さんが④のことをする理由として述べていることを、二つ答えましょう。 生活の( )から。住んでいるところがきれいになったら( )から。</p>

「まくらのそうし枕草子せいしょうなごん」は、今から千年ほど前に、清少納言ずいひつという女性によって書かれた随筆です。

声に出して読みましょう。(20点×1問=20点)

<p>春はあけぼの。  <small>ようよう</small>やうやう白くなりゆく<small>やまざわ</small>山際、少し<small>あ</small>明かりて、  <small>むらさき</small>紫だちたる雲の細くたなびきたる。</p>	<p>春は明け方がよい。          だんだん白くなってゆく<small>やまざわ</small>山際の空が、少し<small>あか</small>明るくなって、  <small>むらさき</small>紫がかった雲が細く①たなびいている。</p>
<p>夏は夜。          月のころはさらなり、  <small>お</small>やみもなほ、②ほたるの多く飛びちがひたる。          また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行く<small>お</small>もをかし。          雨など降る<small>お</small>もをかし。</p> 	<p>夏は夜がよい。          月のある時はさらによい、  <small>よ</small>やみ夜でもやはり、ほたるが多く飛びかっている。          また、ほんの一匹か二匹が、かすかに光っていくのもよい。          雨などが降るのもよい。</p>
<p>秋は夕暮れ。          夕日の差して、山の<small>は</small>端いと近うなりたるに、  <small>ねどころ</small>からすの寝所へ行くとして、  <small>み</small>三つ四つ、二つ三つなど③飛び急ぐさへあはれなり。  <small>かり</small>まいて雁などの連ねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。          日入り果てて、風の音、虫の<small>ね</small>音など、はた言<small>う</small>ふべきにあらず。</p> 	<p>秋は夕暮れがよい。          夕日が差して、山の<small>はし</small>端にとても近くなったところに、          からすがねぐらへ帰ろうとして、          三羽四羽、二羽三羽と飛び急ぐ様子でさえしみじみする。  <small>かり</small>まして、雁などの群が、とても小さく見えるのは、とてもよい。          日がしずんだ後の、風の音や虫の<small>ね</small>音などは、言うまでもない。</p>
<p>冬はつとめて。  <small>ふ</small>雪の降りたるは言<small>う</small>ふべきにもあらず、  <small>しも</small>霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、          火など急ぎおこして、炭持<small>て</small>渡るも、いとつきづし。          昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、  <small>ひ</small>火桶の火も、白<small>はい</small>き灰がちになりてわろし。</p> 	<p>冬は早朝がよい。  <small>ふ</small>雪が降っているのは言うまでもなく、  <small>しも</small>霜がとても白いのも、またそうでなくても、とても寒い時に、          火などを急いでおこして、炭を持って行くのも、とても合っている。          昼になって、温かくだんだんゆるんでいくと、          火ばちの火も、白<small>はい</small>き灰ばかりになってよくない。</p>

上の文章について、正しいものに○をしましょう。(10点×5問=50点)

①	線①の「たなびいている」とは、どんな様子ですか。 空全体に厚くたちこめている。      横に細長くうかんでいる。      小さく細切れになって散っている。
②	線②の「ほたる」について、「たくさん飛んでいる」と「一匹か二匹だけ飛んでいる」のは、どちらがよいと思っていますか。 たくさん飛んでいる方がよい。      一匹か二匹だけ飛んでいる方がよい。      どちらもよい。
③	線③の「飛び急ぐさへあはれなり」を現在の読み方に直すと、どうなりますか。 飛び急ぐさへあはれなり      飛び急ぐさへあわれなり      飛び急ぐさえあわれなり
④	作者がよいと思っている、冬の時間帯はどれですか。 早朝      昼      夕方
⑤	この文章は、何について書かれていますか。 季節ごとの好きな時間帯。      季節ごとの植物の説明。      季節ごとの天気の説明。

古文の言葉の意味を書きましょう。(3点×10問=30点)

① あけぼの	② やうやう	③ をかし	④ いと	⑤ あはれ
⑥ まいて	⑦ つとめて	⑧ さらでも	⑨ つきづし	⑩ わろし

言葉を選び、表現をくふうして俳句や短歌をつくりましょう。

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

俳句は、「五・七・五」の十七音で表現される短い詩で、季節を表す「季語」を入れる決まりがあります。

季節から連想される言葉を集めて、「五・七・五」になるように考えましょう。

① こいのぼり泳ぎつかれて立ち泳ぎ

② 春になりつくしとつくしがせいくらべ

③ 冬の日にまっ白な息飛んでいく



上の文章について答えましょう。(10点×4問=40点)

① ①の俳句の季語と季節は何ですか。

季語…( ) 季節…( )

② ②の俳句を「五・七・五」の三句に分けて書きましょう。

③ ③の俳句を「五・七・五」の三句に分けて書きましょう。

④ 俳句を自由に作りましょう。

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

短歌は、「五・七・五・七・七」の三十一音で表現される短い詩で、「季語」を入れる決まりはありません。

「五・七・五・七・七」より音数が少ないものを「字<sup>た</sup>足らず」、音数が多いものを「字<sup>あま</sup>余り」といいます。

① コンクール出だしそろえる一音のしきぼう見つめて息をすいこむ

② 糸つまむ指を見つめて針<sup>はり</sup>通す水着の名札付いたら夏だ

③ 空の海雲の魚が泳いでるひこうき雲のさぎ波つづく



上の文章について答えましょう。(10点×4問=40点)

① ①の短歌で、「字余り」になっている部分をぬき出しましょう。

② ②の短歌を「五・七・五・七・七」の五句に分けて書きましょう。

③ ③の短歌を「五・七・五・七・七」の五句に分けて書きましょう。

④ 短歌を自由に作りましょう。

二字以上の漢字を組み合わせてできた漢字を「熟語」といいます。<sup>じゆくご</sup>

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

にた意味を表す漢字を組み合わせた熟語	例)禁止、絵画、岩石
意味が対になる漢字を組み合わせた熟語	例)男女、父母、大小
上の漢字が下の漢字の意味をくわしく説明している熟語	例)鉄橋、雪原、新米
上の漢字が動作や作用を、下の漢字がその対象を表す熟語	例)乗馬、読書、消火
上の漢字が下の漢字の意味を打ち消している熟語	例)不満、無料、非常



次の熟語を、種類別に分けてみましょう。(2点×10問=20点)

終始	永久	中央	勝敗	往復	寒冷	戦争	増減	学習	利害
にた意味を表す漢字の組み合わせた熟語									
意味が対になる漢字の組み合わせた熟語									

「上の漢字が下の漢字の意味をくわしく説明している熟語」を分かりやすい形に直しましょう。(2点×5問=10点)

例	新人 → 新しい人	①	早朝 →	②	魚群 →
③	美人 →	④	小枝 →	⑤	雲海 →

「上の漢字が動作や作用を、下の漢字がその対象を表す熟語」を分かりやすい形に直しましょう。(2点×5問=10点)

例	作文 → 文を作る	①	読書 →	②	着陸 →
③	乗車 →	④	着席 →	⑤	登山 →

「不」か「無」か「未」をつけて、「上の漢字が下の漢字の意味を打ち消している熟語」にしましょう。(2点×5問=10点)

例	正 → 不正	①	色 →	②	定 →
③	理 →	④	完 →	⑤	安 →

次の熟語を、種類別に分けてみましょう。(2点×20問=40点)

集合	上下	黒板	明暗	加熱	道路	消火	停止	外国	乗船
進退	親子	帰国	青空	出発	良心	古都	作曲	表現	天地
にた意味を表す漢字の組み合わせた熟語									
意味が対になる漢字の組み合わせた熟語									
上の漢字が下の漢字の意味をくわしく説明している熟語									
上の漢字が動作や作用を、下の漢字がその対象を表す熟語									

二つ以上の言葉で、とくべつな意味を表す言い方を慣用句といいます。

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

「ねこの手もかりたい」とは、小さな動物の助けもほしくなるくらいいいそがしいという意味です。

「道草を食う」とは、目的の場所に行くところ途中で、ほかのことをするという意味です。

「水と油」とは、二つの物や人が合わないという意味です。

「二匹目のどじょう」とは、成功した人や作品をのまねをするという意味です。

このように、二つ以上の言葉が結びついて、元の言葉とはちがう新しい意味を表す言い方を、慣用句といいます。



「自然」に関する慣用句とその意味を線で結びましょう。(4点×5問=20点)

①	うり二つ	・	・	努力しなければ良い結果は出ない。
②	ちりもつもれば山となる	・	・	そっくり。
③	まかぬたねは生えぬ	・	・	小さなものでも、たまって重なると大きなものになる。
④	雲をつかむような	・	・	大きな声でおこる。
⑤	かみなりを落とす	・	・	とらえどころがない。

「体」に関する慣用句とその意味を線で結びましょう。(4点×5問=20点)

①	耳をかたむける	・	・	自分のうでまえや力に自信がある。
②	頭をひやす	・	・	苦勞する。
③	うでにおぼえがある	・	・	気をつけて聞く。
④	手をやく	・	・	高ぶった気持ちを落ち着かせる。
⑤	ほねがおれる	・	・	どうすることもできずに、こまる。

「動物」に関する慣用句とその意味を線で結びましょう。(4点×5問=20点)

①	<small>けんえん</small> 犬猿のなか	・	・	ごまかす。
②	馬が合う	・	・	気が合う。
③	さばを読む	・	・	ほんのわずか。
④	すずめのなみだ	・	・	とてもなかの悪い関係。
⑤	さるも木から落ちる	・	・	上手な人でもしっばいすることがある。

( )に合う言葉を、下からえらんで書きましょう。(5点×6問=30点)

①	( ) のようなわくわくする試合だ。
②	本当のことを言おうと( )。
③	村上さんは、( )友達だ。
④	五時までに家に帰るように( )。
⑤	この前のけんかのことは、おたがいに( )ことにした。
⑥	( )ほどの庭しかない。

気がおけない

手にあせをにぎる

ねんをおす

ねこのひたい

はらを決める

水に流す

五年で学習した193字の漢字をテストしましょう。

漢字で書きましょう。(3点×30問=90点)

①	よきん      げんがく □ を □ する。	②	げんぞう      な □ に □ れる。	③	ぼうはん      きほん □ の □ 。
④	ふくぎつ      こうぞう □ な □ 。	⑤	してん      おうふく □ を □ する。	⑥	しよむ      たし □ を □ かめる。
⑦	じょうほう      せいげん □ を □ する。	⑧	しゅじゅつ      じゅんび □ の □ 。	⑨	きそく      さか □ に □ らう。
⑩	げんざい      じょうたい □ の □ 。	⑪	せいけつ      おうせつしつ □ な □ 。	⑫	しょうたいけん      ふ □ を □ やす。
⑬	てっこう      ぼうえき □ の □ 。	⑭	はそん      げんいん □ の □ 。	⑮	ひさ      さくら □ しぶりに □ を <sup>み</sup> 見る。
⑯	えいぎょう      のうりよく □ の □ 。	⑰	けつえき      せいしつ □ の □ 。	⑱	せいふ      べんかい □ が □ する。
⑲	かくべつ      けいけん □ な □ 。	⑳	ひんしつ      はんだん □ を □ する。	㉑	きょうじゅ      ろうがんきょう □ の □ 。
㉒	ゆうかん      くら □ を <sup>よ</sup> 読み □ べる。	㉓	はんが      ねんがじょう □ の □ 。	㉔	そり      あやま □ が <sup>こくみん</sup> 国民に □ する。
㉕	へんしゅうちょう      ていあん □ の □ 。	㉖	ほいく      ちしき □ の □ 。	㉗	ぬの      きんとう □ を □ に <sup>わ</sup> 分ける。
㉘	びよう      てき □ に □ している。	㉙	どう      さんか □ が □ する。	㉚	えいえん      ひょうじ □ に □ する。

読み方を書きましょう。(2点×5問=10点)

例	そふぼ      さんせい 祖父母の賛成。	①	過去の災害。	②	物資が重複する。
③	文句を述べる。	④	組織が主張する。	⑤	氷河と海の境目。

五年で学習した193字の漢字をテストしましょう。

漢字で書きましょう。(3点×30問=90点)

①	こうか      しょうめい [ ] を [ ] する。	②	ひじょう      ほうふ [ ] に [ ] だ。	③	じっせき      こうし [ ] のある [ ] 。
④	きんせん      じょうけん [ ] の [ ] 。	⑤	ごえい      おん [ ] に [ ] を返す。	⑥	えんぎ      じゅんじょ [ ] の [ ] 。
⑦	じゅうきよ      かせつ [ ] を [ ] する。	⑧	だいとうりょう      ゆめ [ ] の [ ] 。	⑨	ざいだん      りえき [ ] の [ ] 。
⑩	かねんぶつ      けんさ [ ] の [ ] 。		ふたた      たいせい [ ] び [ ] を整える。		きゅうしき      ほけん [ ] の [ ] 。
	えだ      みき      ゆそう [ ] や [ ] の [ ] 。		てき      きず [ ] が陣地を [ ] く。	⑮	めん      せいひん      あま [ ] の [ ] が [ ] する。
⑬	たがや      ひりょう [ ] して [ ] をまく。	⑰	ぜいきん      しゅうせい [ ] を [ ] する。	⑱	こうしゃ      はか [ ] の裏のお [ ] 。
⑲	あつ      はか [ ] の [ ] さを [ ] する。	⑳	しっそ      まず [ ] で [ ] しい生活。	㉑	こべつ      ひょうか [ ] に [ ] する。
㉒	じこ      かりつ [ ] の [ ] 。	㉓	いじゅう      しょうち [ ] を [ ] する。	㉔	ていど      か ある [ ] 、金を [ ] す。
㉕	さいてん      しょうりやく [ ] を [ ] する。	㉖	じっさい      だんあつ [ ] の [ ] 。	㉗	いいく      きんし [ ] を [ ] する。
㉘	ぶし      つみ      ゆる [ ] が [ ] を [ ] す。	㉙	しよぞくさき      よ [ ] に [ ] する。	㉚	どうとく      せいしん [ ] の [ ] 。

読み方を書きましょう。(2点×5問=10点)

例	ころよく      しりぞく [ 快く ]、代表を [ 退く ]。	①	[ 迷子 ] を [ 導く ]。	②	[ 復興 ] を [ 志す ]。
③	[ 妻 ] に [ 似ている ]。	④	[ 新婦 ] の [ 独り言 ]。	⑤	[ 土俵 ] で [ 気絶 ] する。

1	5年の漢字①	制限時間 20分	合格点 80点	点
---	--------	-------------	------------	---

漢字に共通している部分を、部首といいます。れい)紙、線、絵、細、組

漢字をていねいになぞりましょう。(2点×8問=16点)

	手術 しゆじゆつ	美術 びじゆつ	美術館 びじゆつかん		過ごす す	過去 かこ
	芸術 げいじゆつ	美術館 びじゆつかん			通過 つうか	過労 かろう
	述べる の	記述 きじゆつ	口述 こうじゆつ		現れる あらわ	現代 げんだい
	述語 じゆつご	記述 きじゆつ	口述 こうじゆつ		表現 ひょうげん	現像 げんぞう
	増える ふ	増加 ぞうか	増員 ぞういん		在る あ	現在 げんざい
	増す ま	増加 ぞうか	増員 ぞういん		在りか あ	在校生 ざいこうせい
	画像 がざう	実像 じつざう	立像 りつざう		象 ぞう	印象 いんしやう
	想像 そうざう	実像 じつざう	立像 りつざう		子象 こざう	対象 たいしやう

漢字で書きましょう。(5点×15問=75点)

①	げいじゆつ 芸術にふれる	②	の 気持ちを述べる	③	じゆつご 主語と述語
④	ふ 参加者が増える	⑤	ま 雨の勢いが増す	⑥	ぞうか 人口が増加する
⑦	そうざう 気持ちを想像する	⑧	す のんびりと過ごす	⑨	つうか トンネルを通過する
⑩	あらわ 目の前に現れる	⑪	げんぞう 写真を現像する	⑫	げんざい 現在の天気
⑬	ざいこうせい 在校生のあいさつ	⑭	ぞう 象の背中に乗る	⑮	いんしやう 良い印象を与える

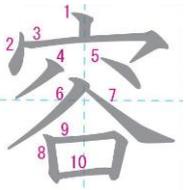
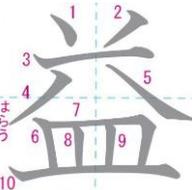
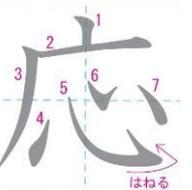
読み方を書きましょう。(3点×3問=9点)

①	かこ 過去の出来事	②	ありか 財宝の在りか	③	しょうじき 正直に話す
---	--------------	---	---------------	---	----------------

4	5年の漢字②	制限時間 20分	合格点 80点	点
---	--------	-------------	------------	---

左につく部首を「へん」といいます。れい)紙、線、絵 → 「いとへん」 校、村、林 → 「きへん」

漢字をていねいになぞりましょう。(2点×8問=16点)

	へ 経る しんけい 神経	けいけん 経験 けい か 経過		ようき 容器 ようりょう 容量	ないよう 内容 びよう 美容
	りえき 利益 むえき 無益	ゆうえき 有益 ますだし 益田市		しりょう 資料 しきん 資金	しさん 資産 ぶつし 物資
	さかい 境 けんざかい 県境	きょうかい 境界 こっきょう 国境		こた 応える おう 応じる	おうせん 応戦 はんのう 反応
	め 眼 きんがん 近眼	がんか 眼科 ろうがんきょう 老眼鏡		たし 確か せいかく 正確	かくしん 確信 かくじつ 確実

漢字で書きましょう。(5点×15問=75点)

①	けいか 三時間 <b>経過</b> する	②	しんけい <b>神経</b> を研ぎ澄ます	③	むえき <b>無益</b> な戦い
④	さかいめ 天気 <b>境目</b>	⑤	こっきょう <b>国境</b> を越える	⑥	がんか <b>眼科</b> の先生
⑦	ようき プラスチック <b>容器</b>	⑧	ないよう <b>内容</b> を伝える	⑨	しりょう <b>資料</b> を読む
⑩	ぶつし <b>物資</b> が不足する	⑪	おう 取引 <b>応</b> じる	⑫	こた 要望 <b>応</b> える
⑬	おうせん 敵 <b>応戦</b> する	⑭	たし 事実 <b>確</b> かめる	⑮	せいかく <b>正確</b> な情報

読み方を書きましょう。(3点×3問=9点)

①	へる ながとき <b>経る</b>	②	め <b>眼</b> の検査をする	③	はんのう 世間の <b>反応</b>
---	----------------------	---	----------------------	---	-----------------------

国語のノートには、学習で分かったことだけでなく、自分の考えや参考になる友達の良い考えも書きましょう。

声に出して読みましょう。(30点×1問=30点)

**今日のまとめ**

おじいちゃんから「ぼく」へ、「ぼく」からおじいちゃんへの、それぞれの気持ちや伝わるように音読したい。友達のアドバイスが参考になった。

○ 十八ページの「だいじょうぶ、だいじょうぶ。」  
今度はぼくの番です。

「ぼく」が、おじいちゃんをはげまそうとして言った。  
→  
はげますように、力をこめて読む。

○ 十六ページの「だいじょうぶ、だいじょうぶ。」  
ぼくの手をにぎり、おまじないのようにつぶやく。

おじいちゃんが、「ぼく」を安心させようとして言った。  
→  
ゆっくりと、少し小さな声でやさしく読む。

◎ 音読するときの注意

- ・ 声の大きさ
- ・ 声の高さ
- ・ 読む速さ
- ・ 間の取り方
- ・ 声の調子



**今日のめあて**

「だいじょうぶ、だいじょうぶ。」にこめられた気持ちを考える。

四月十五日 だいじょうぶ だいじょうぶ

先生が黒板に書いた  
だいじなことを書き写す。

学習を進めていくうえで  
大切なことは、  
線で囲んで目立たせる。

学習して分かっただいじなことや、次の学習に生かしたいことなどをまとめる。

余白を取り、  
友だちの意見などを、  
書き加えられるようにする。

上の文章について、正しいものに○をしましょう。(10点×5問=50点)

①	日付は、どこに書きますか。	左上	左下	右下
②	学習を進めていくうえで大切なことは、どうしますか。	べつのノートに書く。	ほかの文と同じように書く。	線で囲んで目立たせる。
③	余白を取るのには、何のためですか。	ノートをきれいに見せるため。	友だちの意見などを書き加えるため。	新しい漢字を練習するため。
④	おじいちゃんから「ぼく」への「だいじょうぶ、だいじょうぶ。」は、どのように音読しますか。	ゆっくりと、少し小さな声でやさしく読む。	はげますように、力をこめて読む。	おこったように、早口で強く読む。
⑤	「ぼく」からおじいちゃんへの「だいじょうぶ、だいじょうぶ。」は、どのように音読しますか。	ゆっくりと、少し小さな声でやさしく読む。	はげますように、力をこめて読む。	おこったように、早口で強く読む。

上の文章について答えましょう。(10点×2問=20点)

①	今日のめあては何ですか。	「だいじょうぶ、だいじょうぶ。」の音読のしかたを話し合う。
②	今日のまとめには、何を書きますか。	( 学習して分かっただいじなこと ) や、次の学習に生かしたいことなどを書く。

漢字は、三千年以上も前に中国で作られました。その後、日本に伝えられ、日本語の文字としても長い間使われています。

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

象形文字…「日」「目」「鳥」のように、物の形をかたどった文字です。



指事文字…「一」「二」「上」「下」のように、形に表しにくいことから、点や線などを使って表した文字です。



会意文字…「山」「石」→「岩」のように、漢字を組み合わせて、新しい意味を表すようにした文字です。



形声文字…「木」「反」→「板」のように、意味を表す漢字と音を表す漢字を組み合わせた文字で、漢字の大半をしめます。



上の文章について答えましょう。(10点×2問=20点)

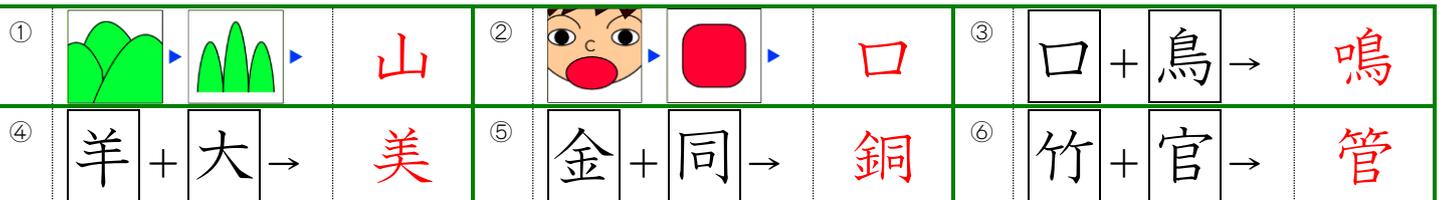
① 指事文字とは、どんな成り立ちの文字ですか。

( 形 ) に表しにくいことから、( 点 ) や ( 線 ) などを使って表した文字。

② 漢字を成り立ちで4つに分類したとき、もっとも多いのはどの種類の漢字ですか。

( 形声 ) 文字

どんな漢字ができるか書きましょう。(3点×6問=18点)



次の形声文字を、意味を表す部分と音を表す部分に分けましょう。(4点×3問=12点)

①	漢字	意味	音	②	漢字	意味	音	③	漢字	意味	音
	校	木	交		粉	米	分		聞	耳	門

漢字を成り立ちで4つに分類したとき、それぞれに合う漢字を5つずつ下から選びましょう。(10点×4問=40点)

①	象形文字	月	大	火	田	鳥	②	指事文字	三	七	本	末	小
③	会意文字	森	男	明	好	信	④	形声文字	泳	紙	時	星	固

森、月、泳、男、明、紙、三、大、火、時、好、七、田、星、本、鳥、固、末、小、信

五・七・五の俳句や、五・七・五・七・七の短歌で、音数が少ないことを「字足らず」、音数が多いことを「字余り」といいます。音数を守ることが原則ですが、「字足らず」や「字余り」であえてリズムをくずして、詩の印象を深めるという手法もあります。また、詩の印象を深めるために、たとえを使ったり、言葉の順序を入れかえたりすることもあります。

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

A	目には青葉 山ほととぎす 初鰯 (目には青葉が映り、山のほととぎすの鳴き声が聞こえ、今年初めて食べるカツオの味が広がる。)	山口 素堂	
B	夏河を 越すうれしきよ 手に草履 (手に草履を持って、はだいで夏の小川を渡るの、うれしいものだ。)	与謝 蕪村	
C	遠雷や はつしてひかる 耳かざり (遠くに雷の音が聞こえて、念のためにはずした耳かざりがキラリと光る。)	木下 夕爾	
D	蟻と蟻 うなづきあひて 何か事 ありげに奔る 西へ東へ (蟻と蟻がすれ違うときに、何か伝える事があるようにうなづき合って、西へ東へと急いでいる。)	橘 曙覧	
E	最上川の 上空にして 残れるは いまだうつくしき 虹の断片 (最上川のはるか上空に、美しい虹の断片がいまだに残っている。)	斎藤 茂吉	
F	てのひらの くぼみにかこぶ 草螢 移さおとして ひかりをこぼす (手のひらのくぼんだ部分に囲んだ螢を、もう片方の手に移そうとしたときに、指のすき間から光がこぼれた。)	高嶋 健一	

上の俳句や短歌について、正しいものに○をしましょう。(10点×5問=50点)

①	Aの俳句では、初夏の季節感が感じられますが、人間の五感のうちどの感覚にうたえかけていますか。	視覚(目)と嗅覚(鼻)と味覚(舌)	触覚(皮ふ)と聴覚(耳)と味覚(舌)	視覚(目)と聴覚(耳)と味覚(舌)
②	Bの俳句では、印象を深めるために、どんなくふうが使われていますか。	たとえを使っている。	言葉の順序を入れかえている。	あえて音数をくずしている。
③	Cの俳句の季語と季節は何ですか。	季語…遠雷 季節…春	季語…遠雷 季節…夏	季語…耳かざり 季節…夏
④	Dの短歌の「うなづきあひて」の部分の説明として、正しいものを選びましょう。	蟻の動作を人の動作にたとえている。	人の動作を蟻の動作にたとえている。	誰の動作か分からないようにしている。
⑤	Eの短歌が、五・七・五・七・七ではなく六・七・五・八・七で字余りになっているのは、なぜですか。	リズムをくずして印象を深めるため。	決まった音数で書ききれなかったため。	短歌ではないため。

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

西瓜の詩 山村 暮鳥	
みんな あつまれ あつまれ	
そしてぐるりと 輪を描け	
いま 真二つになる西瓜だ	

上の詩について、正しいものに○をしましょう。(10点×3問=30点)

①	この詩は、夏を想像させる詩ですが、それは詩の中のどの言葉から分かりますか。	西瓜	みんな	輪を描け
②	「あつまれ」とありますが、どのように「あつまれ」と言っていますか。	一列にあつまる	二列にあつまる	輪になってあつまる
③	詩の中の西瓜は、どのような状態ですか。	丸いままの状態	二つに切った状態	食べやすい大きさに切った状態



「竹取物語」は、今から千年以上も前に書かれた物語で、「かぐやひめ」のお話のもとになっています。

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

古文の発音と現在の発音とのちがい

「あ」は「い」と発音。

例) まある→まいる、聞きある→聞きいる

「づ」は「ず」と発音。

例) みづ→みず、よろづ→よろず

「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」と発音。

例) いふ→いう、まへ→まえ、あらはす→あらわす

「む」は「ん」と発音。

例) おむな→おんな、やむごとなき→やんごとなき

「しう」は「しゅう」と発音。

例) あやしう→あやしゅう、おとなしう→おとなしゅう



古文の言葉を現在の読み方に直しましょう。(3点×12問=36点)

①	あど	②	くれなゐ	③	みづうみ	④	いづれ
	いど		くれない		みずうみ		いづれ
⑤	うしなふ	⑥	やはらげ	⑦	思ひ	⑧	食はへて
	うしなう		やわらげ		思い		食わえて
⑨	取らむ	⑩	散らむ	⑪	うつくしう	⑫	したしう
	取らん		散らん		うつくしゅう		したしゅう

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

<古文>

今は昔、竹取のおきなといふ者ありけり。

野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。

名をば、さぬきのみやつことなむいひける。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。

あやしがりて、寄りて見るに、つつの中光りたり。

それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてあたり。

<意味>

昔、竹取のおじいさんという人がいた。

野山に分け入って竹を取っては、いろいろなことに使っていた。

名前を、「さぬきのみやつこ」といった。

ある日、その竹の中に、根元の光る竹が一本あった。

ふしぎに思って、近よって見ると、竹の中が光っている。

それを見ると、手のひらほどの人が、とてもかわいい様子で座っている。



上の文章について、正しいものに○をしましょう。(8点×3問=24点)

①	「おきな」とは、どういう意味ですか。		
	大きな	おじいさん	おばあさん
②	「よろづのこと」とは、どういう意味ですか。		
	いろいろなこと	決まったこと	大事なこと
③	「うつくしう」とは、どういう意味ですか。		
	美しい	小さい	かわいい

上の文章について答えましょう。(10点×2問=20点)

①	竹取のおじいさんの名前は何か。
	さぬきのみやつこ
②	「ふしぎに思って」という意味になる古文を、文章中から抜き出しましょう。
	あやしがりて

「平家物語」は、実際にあった戦いなどの出来事をもとにして、今から八百年ほど前に作られました。

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

<古文>

祇園精舎の かねの聲、  
諸行無常の ひびきあり。  
娑羅双樹の 花の色、  
盛者必衰の ことわりをあらはす。  
おごれる人も 久しからず、  
ただ春の夜の 夢のごとし。  
たけき者も つひにはほろびぬ、  
ひとへに 風の前の ちりに同じ。

<意味>

祇園精舎という寺のかねの音は、  
「全てのものは移り変わっていく」という真理を、ひびきの中にこめている。  
娑羅双樹の花の色は、  
「勢いのある人も必ずおとろえる」という真理を表す。  
思い上がっている人も長くは続かず、  
ちょうど短くはかない春の夜の夢のようである。  
勇ましく強い者も、最後にはほろびてしまうもので、  
それは全く、風にふき飛ばされていくちりと同じである。



上の文章について、正しいものに○をしましょう。(10点×4問=40点)

①	「平家物語」は、何をもとにして書かれましたか。		
	実際にあった戦い。	作者の身近な出来事。	昔から伝わる伝説。
②	「諸行無常」とは、どういう意味ですか。		
	勢いのある人も必ずおとろえる。	強い人は永遠に変わらない。	全てのものは移り変わっていく。
③	「盛者必衰」とは、どういう意味ですか。		
	勢いのある人も必ずおとろえる。	強い人は永遠に変わらない。	全てのものは移り変わっていく。
④	「平家物語」のリズムには、どんな特ちょうがありますか。		
	七音・六音を基本としている。	七音・五音を基本としている。	八音・五音を基本としている。

「おくのほそ道」は、今から三百年ほど前に、松尾芭蕉という人が書いた紀行文(旅行での出来事を書いた文章)です。

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

<古文>

月日は百代の過客にして、  
行き交ふ年もまた旅人なり。  
舟の上に生涯を浮かべ、  
馬の口とらへて老いを迎ふる者は、  
日々旅にして、  
旅を栖とす。

<意味>

月日は、永遠の旅人のようで、  
やってきては去っていく年も、また旅人のようである。  
舟の上で一生を過ごす人や、  
馬で人や荷物を運びながら、年をとっていく人は、  
毎日が旅であって、  
旅の中にくらしている。



上の文章について、正しいものに○をしましょう。(10点×4問=40点)

①	「おくのほそ道」は、いつごろ書かれましたか。		
	約三百年前	約八百年前	約千年前
②	紀行文とは、どんな文章ですか。		
	身近な出来事を書いた文章。	旅行での出来事を書いた文章。	昔の出来事を書いた文章。
③	「百代の過客」とは、どういう意味ですか。		
	大事なお客さん	百才を過ぎた老人	永遠の旅人
④	旅の中にくらす人として、書かれていないのは、どんな仕事の人ですか。		
	船頭	武士	馬方

50	和語、漢語、外来語	制限時間 20分	合格点 80点	点
----	-----------	-------------	------------	---

日本語には、もともと日本にあった言葉と、外国から入ってきた言葉があります。

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

和語は、もともと日本にあった言葉で、ひらがなや漢字の訓読みが多いです。 例) 泳ぎ、速 <sup>はや</sup> さ、宿 <sup>やど</sup> 、始 <sup>はじ</sup> める
漢語は、中国から日本に伝わった言葉で、漢字の音読みが多いです。 例) 水泳 <sup>すいえい</sup> 、速度 <sup>そくど</sup> 、旅館 <sup>りょかん</sup> 、開 <sup>かい</sup> 始 <sup>し</sup>
外来語は、中国以外の国から入ってきた言葉で、かたかなが多いです。 例) スイミング、スピード、ホテル、スタート
およそ500年前から400年前にかけては、ポルトガルやオランダから外来語が伝わりました。 また150年ほど前からは、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、イタリアなどから外来語が伝わりました。



次の言葉が和語なら和、漢語なら漢、外来語なら外と書きましょう。(2点×20問=40点)

① 家 <b>和</b>	② ミルク <b>外</b>	③ パン <b>外</b>	④ 天 <b>漢</b>	⑤ 逆立ち <b>和</b>
⑥ ピアノ <b>外</b>	⑦ 広場 <b>和</b>	⑧ 本 <b>漢</b>	⑨ 見学 <b>漢</b>	⑩ ガラス <b>外</b>
⑪ 砂糖 <b>漢</b>	⑫ テニス <b>外</b>	⑬ 青空 <b>和</b>	⑭ 音楽 <b>漢</b>	⑮ カード <b>外</b>
⑯ 植物 <b>漢</b>	⑰ クレヨン <b>外</b>	⑱ 弾く <b>和</b>	⑲ 黒い <b>和</b>	⑳ ゆっくり <b>和</b>

次の漢字の和語としての読み方と漢語としての読み方を書きましょう。(4点×5問=20点)

漢字	和語	漢語	漢字	和語	漢語
例 水車	みずぐるま	すいしゃ	① 草原	くさはら	そうげん
② 果物	くだもの	かじつ	③ 市場	いちば	しじょう
④ 色紙	いろがみ	しきし	⑤ 風車	かざぐるま	ふうしゃ

次の外来語と同じ意味を表す和語と漢語を下から選んで書きましょう。(4点×5問=20点)

外来語	和語	漢語	外来語	和語	漢語				
例 スピード	速さ	速度	① ランチ	昼ごはん	昼食				
② ルール	きまり	規則	③ ドリンク	飲み物	飲料				
④ マーク	しるし	記号	⑤ ライフ	くらし	生活				
記号	規則	昼ごはん	飲料	きまり	くらし	生活	しるし	飲み物	昼食

次の和語や漢語を外来語でどのように表すか、□に合わせて書きましょう。(2点×5問=10点)

例 喫茶店	カ	フ	エ	③ 炊事場	キ	ツ	チ	ン	
① 運動着	ジ	ャ	ー	ジ	④ 写真機	カ	メ	ラ	
② 便所	ト	イ	レ	⑤ こよみ	カ	レ	ン	ダ	ー

人の意見を正しく理解するためには、その人がそう考える理由にも目を向けることが大切です。

声に出して読みましょう。(20点×1問=20点)

田中さんたちは、ボランティア活動として、お年寄りがくらしせつを訪問することになりました。

お年寄りに喜んでもらうために、何をするか話し合っています。

田中さんは、みんなの意見と理由をメモに書いています。



川島 みんなで合唱をするのがいいと思います。それは、ぼくたちの合唱を聞いてもらった  
り、いっしょに歌ったりして、楽しんでもらいたいからです。

楽しい音楽を聞いたり歌ったりすると、気持ちが明るくなりますよね。

①、合唱がいいと思います。

意見:合唱

理由:楽しんでもらいたい

気持ちが明るくなる

石川 かるたやすごろくなどでいっしょに遊ぶのはどうですか。

②、昔、友達と遊んだことを思い出して楽しんでもらえると思うからです。

お正月に家族でかるたをして遊んだら、

祖父母がそう言って、とても楽しんでいました。

意見:かるた、すごろくなど

理由:昔を思い出して楽しめる

竹田 楽しんでもらうために何かをするのもいいけれど、

ぼくは、生活の役に立つことをするのがいいと思います。

③、しせつのそじを手伝うのがいいと考えました。

住んでいるところがきれいになったら気持ちがいいので、喜んでもらえると思います。

意見:しせつのそじの手伝い

理由:生活の役に立つ

きれい、気持ちいい

上の文章について、正しいものに○をしましょう。(10点×3問=30点)

① ① に合う言葉はどれですか。

けれど

なぜなら

だから

② ② に合う言葉はどれですか。

そうすれば

しかし

もし

③ ③ に合う言葉はどれですか。

また

そのために

このように

上の文章について、( )に合う言葉を書きましょう。(10点×5問=50点)

① 川島さんは、楽しい音楽を聞いたり歌ったりするとどうなると発言していますか。

( 気持ちが明るくなる )。

② 体験したことを例に挙げながら発言しているのは、だれですか。

( 石川 )さん。

③ 川島さんと石川さんの考えは、どんな点で共通していますか。

( (例)楽しんでもらいたい )という点。

④ 竹田さんは、具体的に何をしたいと述べていますか。発言の中から七字でぬき出しましょう。

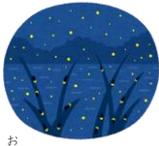
( しせつのそじ )。

⑤ 竹田さんが④のことをする理由として述べていることを、二つ答えましょう。

生活の( 役に立つ )から。住んでいるところがきれいになったら( 気持ちがいい )から。

「<sup>まくらのそうし</sup>枕草子」は、今から千年ほど前に、<sup>せいしょうなごん</sup>清少納言という女性によって書かれた<sup>ずいひつ</sup>随筆です。

声に出して読みましょう。(20点×1問=20点)

<p>春はあけぼの。 やうやう白くなりゆく山際、少し明かりて、 紫だちたる雲の細くたなびきたる。</p>		<p>春は明け方がよい。 だんだん白くなってゆく山際の空が、少し明るくなって、 紫がかった雲が細く①たなびいている。</p>
<p>夏は夜。 月のころはさらなり、 やみもなほ、②ほたるの多く飛びちがひたる。 また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。 雨など降るもをかし。</p>		<p>夏は夜がよい。 月のある時はさらにより、 やみ夜でもやはり、ほたるが多く飛びかっている。 また、ほんの一匹か二匹が、かすかに光っていくのもよい。 雨などが降るのもよい。</p>
<p>秋は夕暮れ。 夕日の差して、山の端いと近うなりたるに、 からすの寝所へ行くとして、 三つ四つ、二つ三つなど③飛び急ぐさへあはれなり。 まいて雁などの連ねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。 日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言ふべきにあらず。</p>		<p>秋は夕暮れがよい。 夕日が差して、山の端にとても近くなったところに、 からすがねぐらへ帰ろうとして、 三羽四羽、二羽三羽と飛び急ぐ様子でさしみじみする。 まして、雁などの群が、とても小さく見えるのは、とてもよい。 日がしずんだ後の、風の音や虫の音などは、言うまでもない。</p>
<p>冬はつとめて。 雪の降りたるは言ふべきにもあらず、 霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、 火など急ぎおこして、炭持て渡るも、いとつきづし。 昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、 火桶の火も、白き灰がちになりてわろし。</p>		<p>冬は早朝がよい。 雪が降っているのは言うまでもなく、 霜がとても白いのも、またそうでなくても、とても寒い時に、 火などを急いでおこして、炭を持って行くのも、とても合っている。 昼になって、温かくだんだんゆるんでいくと、 火ばちの火も、白い灰ばかりになってよくない。</p>

上の文章について、正しいものに○をしましょう。(10点×5問=50点)

①	線①の「たなびいている」とは、どんな様子ですか。	空全体に厚くたちこめている。	横に細長くかかっている。	小さく細切れになって散っている。
②	線②の「ほたる」について、「たくさん飛んでいる」と「一匹か二匹だけ飛んでいる」のは、どちらがよいと思っていますか。	たくさん飛んでいる方がよい。	一匹か二匹だけ飛んでいる方がよい。	どちらもよい。
③	線③の「飛び急ぐさへあはれなり」を現在の読み方に直すと、どうなりますか。	飛び急ぐさへあはれなり	飛び急ぐさへあわれなり	飛び急ぐさへあはれなり
④	作者がよいと思っている、冬の時間帯はどれですか。	早朝	昼	夕方
⑤	この文章は、何について書かれていますか。	季節ごとの好きな時間帯。	季節ごとの植物の説明。	季節ごとの天気の説明。

古文の言葉の意味を書きましょう。(3点×10問=30点)

①	あけぼの	②	やうやう	③	をかし	④	いと	⑤	あはれ
	明け方		だんだん		よい		とても		しみじみする
⑥	まいて	⑦	つとめて	⑧	さらでも	⑨	つきづし	⑩	わろし
	まして		早朝		そうでなくても		合っている		よくない

言葉を選び、表現をくふうして俳句や短歌をつくりましょう。

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

俳句は、「五・七・五」の十七音で表現される短い詩で、季節を表す「季語」を入れる決まりがあります。

季節から連想される言葉を集めて、「五・七・五」になるように考えましょう。

① こいのぼり泳ぎつかれて立ち泳ぎ

② 春になりつくしとつくしがせいくらべ

③ 冬の日にまっ白な息飛んでいく



上の文章について答えましょう。(10点×4問=40点)

① ①の俳句の季語と季節は何ですか。

季語…( **こいのぼり** ) 季節…( **春** )

② ②の俳句を「五・七・五」の三句に分けて書きましょう。

**春になり つくしとつくしが せいくらべ**

③ ③の俳句を「五・七・五」の三句に分けて書きましょう。

**冬の日に まっ白な息 飛んでいく**

④ 俳句を自由に作りましょう。

(例) <sup>もも</sup>桃つつむ ネットに残る いいかおり

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

短歌は、「五・七・五・七・七」の三十一音で表現される短い詩で、「季語」を入れる決まりはありません。

「五・七・五・七・七」より音数が少ないものを「字<sup>た</sup>足らず」、音数が多いものを「字<sup>あま</sup>余り」といいます。

① コンクール出だしそろえる一音のしきぼう見つめて息をすいこむ

② 糸つまむ指を見つめて針通す水着の名札付いたら夏だ

③ 空の海雲の魚が泳いでるひこうき雲のさざ波つづく



上の文章について答えましょう。(10点×4問=40点)

① ①の短歌で、「字余り」になっている部分をぬき出しましょう。

**しきぼう見つめて**

② ②の短歌を「五・七・五・七・七」の五句に分けて書きましょう。

**糸つまむ 指を見つめて 針通す 水着の名札 付いたら夏だ**

③ ③の短歌を「五・七・五・七・七」の五句に分けて書きましょう。

**空の海 雲の魚が 泳いでる ひこうき雲の さざ波つづく**

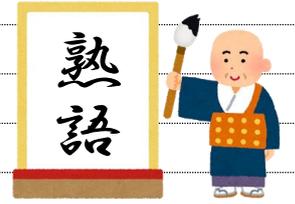
④ 短歌を自由に作りましょう。

(例) 「お兄ちゃん」 早く聞きたい その言葉 かわいい弟 今七カ月

二字以上の漢字を組み合わせてできた漢字を「熟語」といいます。<sup>じゆくご</sup>

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

にた意味を表す漢字を組み合わせた熟語	例)禁止、絵画、岩石
意味が対になる漢字を組み合わせた熟語	例)男女、父母、大小
上の漢字が下の漢字の意味をくわしく説明している熟語	例)鉄橋、雪原、新米
上の漢字が動作や作用を、下の漢字がその対象を表す熟語	例)乗馬、読書、消火
上の漢字が下の漢字の意味を打ち消している熟語	例)不満、無料、非常



次の熟語を、種類別に分けましょう。(2点×10問=20点)

終始	永久	中央	勝敗	往復	寒冷	戦争	増減	学習	利害
にた意味を表す漢字の組み合わせた熟語					永久	中央	寒冷	戦争	学習
意味が対になる漢字の組み合わせた熟語					終始	勝敗	往復	増減	利害

「上の漢字が下の漢字の意味をくわしく説明している熟語」を分かりやすい形に直しましょう。(2点×5問=10点)

例	新人 → 新しい人	①	早朝 → 早い朝	②	魚群 → 魚の群
③	美人 → 美しい人	④	小枝 → 小さい枝	⑤	雲海 → 雲の海

「上の漢字が動作や作用を、下の漢字がその対象を表す熟語」を分かりやすい形に直しましょう。(2点×5問=10点)

例	作文 → 文を作る	①	読書 → 書を読む	②	着陸 → 陸に着く
③	乗車 → 車に乗る	④	着席 → 席に着く	⑤	登山 → 山に登る

「不」か「無」か「未」をつけて、「上の漢字が下の漢字の意味を打ち消している熟語」にしましょう。(2点×5問=10点)

例	正 → 不正	①	色 → 無色	②	定 → 未定
③	理 → 無理	④	完 → 未完	⑤	安 → 不安

次の熟語を、種類別に分けましょう。(2点×20問=40点)

集合	上下	黒板	明暗	加熱	道路	消火	停止	外国	乗船
進退	親子	帰国	青空	出発	良心	古都	作曲	表現	天地
にた意味を表す漢字の組み合わせた熟語					集合	道路	停止	出発	表現
意味が対になる漢字の組み合わせた熟語					上下	明暗	進退	親子	天地
上の漢字が下の漢字の意味をくわしく説明している熟語					黒板	外国	青空	良心	古都
上の漢字が動作や作用を、下の漢字がその対象を表す熟語					加熱	消火	乗船	帰国	作曲

二つ以上の言葉で、とくべつな意味を表す言い方を慣用句といいます。

声に出して読みましょう。(10点×1問=10点)

「ねこの手もかりたい」とは、小さな動物の助けもほしくなるくらいいいそがしいという意味です。

「道草を食う」とは、目的の場所に行くところ途中で、ほかのことをするという意味です。

「水と油」とは、二つの物や人が合わないという意味です。

「二匹目のどじょう」とは、成功した人や作品をのまねをするという意味です。

このように、二つ以上の言葉が結びついて、元の言葉とはちがう新しい意味を表す言い方を、慣用句といいます。



「自然」に関する慣用句とその意味を線で結びましょう。(4点×5問=20点)

①	うり二つ	<del>→</del>	努力しなければ良い結果は出ない。
②	ちりもつもれば山となる	<del>→</del>	そっくり。
③	まかぬたねは生えぬ	<del>→</del>	小さなものでも、たまって重なると大きなものになる。
④	雲をつかむような	<del>→</del>	大きな声でおこる。
⑤	かみなりを落とす	<del>→</del>	とらえどころがない。

「体」に関する慣用句とその意味を線で結びましょう。(4点×5問=20点)

①	耳をかたむける	<del>→</del>	自分のうでまえや力に自信がある。
②	頭をひやす	<del>→</del>	苦勞する。
③	うでにおぼえがある	<del>→</del>	気をつけて聞く。
④	手をやく	<del>→</del>	高ぶった気持ちを落ち着かせる。
⑤	ほねがおれる	<del>→</del>	どうすることもできずに、こまる。

「動物」に関する慣用句とその意味を線で結びましょう。(4点×5問=20点)

①	<small>けんえん</small> 犬猿のなか	<del>→</del>	ごまかす。
②	馬が合う	<del>→</del>	気が合う。
③	さばを読む	<del>→</del>	ほんのわずか。
④	すずめのなみだ	<del>→</del>	とてもなかの悪い関係。
⑤	さるも木から落ちる	<del>→</del>	上手な人でもしっばいすることがある。

( )に合う言葉を、下からえらんで書きましょう。(5点×6問=30点)

①	( <b>手にあせをにぎる</b> ) ようなわくわくする試合だ。				
②	本当のことを言おうと( <b>はらを決める</b> )。				
③	村上さんは、( <b>気がおけない</b> ) 友達だ。				
④	五時までに家に帰るように( <b>ねんをおす</b> )。				
⑤	この前のけんかのことは、おたがいに( <b>水に流す</b> ) ことにした。				
⑥	( <b>ねこのひたい</b> ) ほどの庭しかない。				
気がおけない	手にあせをにぎる	ねんをおす	ねこのひたい	はらを決める	水に流す

五年で学習した193字の漢字をテストしましょう。

漢字で書きましょう。(3点×30問=90点)

①	よきん げんがく 預金を減額する。	②	げんぞう な 現像に慣れる。	③	ぼうはん きほん 防犯の基本。
④	ふくざつ こうぞう 複雑な構造。	⑤	してん おうふく 支店を往復する。	⑥	しよむ たし 職務を確かめる。
⑦	じょうほう せいげん 情報を制限する。	⑧	しゅじゅつ じゅんび 手術の準備。	⑨	きそく さか 規則に逆らう。
⑩	げんざい じょうたい 現在の状態。	⑪	せいけつ おうせつしつ 清潔な応接室。	⑫	しょうたいけん ふ 招待券を増やす。
⑬	てっこう ぼうえき 鉄鋼の貿易。	⑭	はそん げんいん 破損の原因。	⑮	ひさ さくら 久しぶりに桜を見る。
⑯	えいぎょう のうりょく 営業の能力。	⑰	けつえき せいしつ 血液の性質。	⑱	せいふ べんかい 政府が弁解する。
⑲	かくべつ けいけん 格別な経験。	⑳	ひんしつ はんたん 品質を判断する。	㉑	きょうじゆ ろうがんきょう 教授の老眼鏡。
㉒	ゆうかん くら 夕刊を読み比べる。	㉓	はんが ねんがじょう 版画の年賀状。	㉔	そり あやま 総理が国民に謝る。
㉕	へんしゅうちょう ていあん 編集長の提案。	㉖	ほいくし ちしき 保育士の知識。	㉗	ぬの きんとう 布を均等に分ける。
㉘	びよう てき 美容に適している。	㉙	どう さんか 銅が酸化する。	㉚	えいえん ひょうじ 永遠に表示する。

読み方を書きましょう。(2点×5問=10点)

例	そふぼ さんせい 祖父母の賛成。	①	かこ さいがい 過去の災害。	②	ぶつし ちょうふく 物資が重複する。
③	もんく の 文句を述べる。	④	そしき しゅちょう 組織が主張する。	⑤	ひょうが さかいめ 氷河と海の境目。

五年で学習した193字の漢字をテストしましょう。

漢字で書きましょう。(3点×30問=90点)

①	こうか しょうめい 効果 <small>を</small> 証明 <small>する</small> 。	②	ひじょう ほうふ 非常 <small>に</small> 豊富 <small>だ</small> 。	③	じっせき こうし 実績 <small>のある</small> 講師。
④	きんせん じょうけん 金銭 <small>の</small> 条件。	⑤	ごえい おん 護衛 <small>に</small> 恩 <small>をかえ</small> を返す。	⑥	えんぎ じゅんじょ 演技 <small>の</small> 順序。
⑦	じゅうきょ かせつ 住居 <small>を</small> 仮設 <small>する</small> 。	⑧	だいたうりょう ゆめ 大統領 <small>の</small> 夢。	⑨	ざいだん りえき 財団 <small>の</small> 利益。
⑩	かねんぶつ けんさ 可燃物 <small>の</small> 検査。	ふたたび たいせい 再 <small>び</small> 態勢 <small>を</small> 整える。	きゅうしき ほけん 旧式 <small>の</small> 保険。		
えだ みき ゆそう 枝 <small>や</small> 幹 <small>の</small> 輸送。	てき きず 敵 <small>が</small> 陣地 <small>を</small> 築く。	⑮	めん せいひん あま 綿 <small>の</small> 製品 <small>が</small> 余る。		
⑬	たがや ひりょう 耕 <small>して</small> 肥料 <small>を</small> まく。	⑭	ぜいきん しゅうせい 税金 <small>を</small> 修正 <small>する</small> 。	⑯	こうしゃ はか 校舎 <small>の</small> 裏 <small>の</small> お墓。
⑰	あつ はか 辞書の 厚 <small>さを</small> 測 <small>る</small> 。	⑱	しっそ まず 質素 <small>で</small> 貧 <small>しい</small> 生活。	⑳	こべつ ひょうか 個別 <small>に</small> 評価 <small>する</small> 。
⑲	じこ かりつ 事故 <small>の</small> 確率。	㉑	いじゅう しょうち 移住 <small>を</small> 承知 <small>する</small> 。	㉒	ていど か ある 程度 <small>、金を</small> 貸 <small>す</small> 。
㉓	さいてん しょうりやく 採点 <small>を</small> 省略 <small>する</small> 。	㉔	じっさい でんあつ 実際 <small>の</small> 電圧。	㉓	いいく きんし 飼育 <small>を</small> 禁止 <small>する</small> 。
㉕	ぶし つみ ゆる 武士 <small>が</small> 罪 <small>を</small> 許 <small>す</small> 。	㉖	しょぞくさき よ 所属先 <small>に</small> 寄 <small>る</small> 。	㉔	どうとく せいしん 道徳 <small>の</small> 精神。

読み方を書きましょう。(2点×5問=10点)

例	こころよく しりぞく 快 <small>く</small> 、代表 <small>を</small> 退 <small>く</small> 。	①	まいご みちびく 迷子 <small>を</small> 導 <small>く</small> 。	②	ふっこう こころざす 復興 <small>を</small> 志 <small>す</small> 。
③	つま にている 妻 <small>に</small> 似 <small>ている</small> 。	④	しんぶ ひとりごと 新婦 <small>の</small> 独り言。	⑤	どひょう きぜつ 土俵 <small>で</small> 気絶 <small>する</small> 。